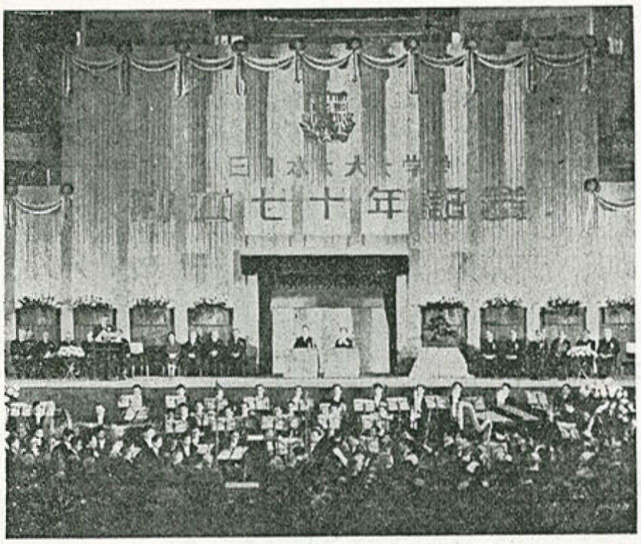
日本大学農獸醫學部校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京謄工ＫＫ

10月6日 日大講堂で 創立70年記念式典

両陛下をお迎えして 関係者五千人が参列

全国にテレビ中継



写真は花やかな式場風景

創立七十年記念式典は十月六日午前十時から新装なった両国日大講堂に、天皇陛下・皇后陛下をお迎えして岸首相、田中最高裁長官、松田文相、大浜早大総長など来賓千五百人、校友千五百人、学生代表二千人の参列のもとに行われた。両陛下が永田総長の先導で式壇の席におつきになり、永沢式典主幹の司会で開式された。またこの式典は全国にテレビ中継された。

九時五十分、黒ぬりのロールスロイスが講堂に横付けされ、両陛下がお車をおりられ、総長以下教職員の出迎えに軽く会釈され、側殿に向われた。九時五十五分、校旗を先頭に各学部旗が入場、つづいて金丸芸術学部学監の案内で岸首相、田中最高裁判所長官、松田文相、大浜早大総長、小沢衆議院議員、宮岡元農林の六氏が壇上の来賓席へ、県総裁、山岡名誉総長、佐藤名誉会頭、佐々木副会頭が通事席に着く。十時「君が代」演奏のうちに、永田総長の先導で両陛下がご入場。

全員所定の席に着いたところで、永沢式典主幹が開式を宣言して、最初に古田会頭が開式の辞を「天皇陛下、皇后陛下のご臨席をあおぎ本学創立七十年記念式典を迎えたことは、教職員、校友、学生およびその父兄にとって千載に残る感激であります。この栄えある式典を契機に、決意と構想をあらたにして、教育研究の内容充実、世界文化の進展に貢献する覚悟である」とのべた。つづいて、永田総長が緊張したおももちで式辞をのべたが、その中で「国家の興隆は学問の振興と教育の向上にあり、本学は創立者山田顕義伯の建学精神に鑑み、その任務は非常に大きい、今後とも誠心誠意職務にあたり、国家社会の要請に応えることをお誓いする」とのべた。

そのあと来賓を代表して岸首相が「私学の雄として過去七十年の長きにわたり、わが国の政治経済および文化の各分野において、多大の業績をあげつつあることは広く世人の知るところである。ねがわくは国家の将来に深く思いをいたし、師弟、同窓協力一致し、光輝ある伝統をうけつぎ、国運の隆昌と社会福祉の増進に寄与されんことを切望する」と祝辞を、さらに教育界を代表して大浜早大総長、校友を代表して小沢衆議院議員がそれぞれ祝辞をのべた。

全員起立する中を永田総長が両陛下の前に進み、天皇陛下のお言葉をいただく。天皇陛下のおごそかなお声が静まりかえった式場に流れる。本学の過去七十年の社会に対する貢献を賞されたとのべたあと「今後、さらに一致協力して学園の充実をはかり、ますます文化の向上に寄与し、その使命達成に努力することを希望します」とお言葉を結ばれる。それにたいして永田総長が「この感激を忘れず今後とも努力致します」と言葉少なに返答した。

両陛下が着席されると、東京フィルハーモニーが奏楽を高らかに演奏する。校友代表として祝辞をのべた小沢衆議院議員がこころもちうわ目づかいにして、祝歌に聴き入る。学生時代の想い出が頭をかすめるのだろう。演奏が終ったあと、県総裁が面前に進みでて両陛下万歳の音頭をとった。広い式場に万歳三唱が響きわたる。皇后陛下が静かに頭をお下げになる。つづいて君が代がふたたび場内に流れると同時に両陛下は関係の拍手に送られて退場され、十時三十五分、一路貴賓室に向かわれた。

総長、会頭が席にもどる間、場内にはシュトラウスの「ポルカ」が流れる。演奏が終ると、佐々木副会頭が祝電を披露する。駐日英国大使、ハーバート大学、ジョージワシントン大学、台湾日大校友会、芸合副総理、学習院大学など多数の祝電があった後披露された。つづいて、山岡名誉総長が、本大学万歳の音頭をとって、最後に佐藤名誉会頭が閉式の辞をのべ、栄えある創立七十年記念式典は十時四十五分とどこおりなく幕を閉じた。

新館落成の祝賀と懇親会、都下高校長・進学担当教官を招き

本年十月二十八日、本学の第二期工事としての新館（地下一、地上四）が落成した。これに際し種々の祝賀会および懇親会が催されたが、去る十一月二十八日、本学部特に学生募集対策委員会（仮称）が中心となり、都下近県の高等学校長または大学進学担当教官を新館落成と学内構成（各学科の施設、設備、学科目等）等の紹介をかねて招待、会は本学教職員を含め百数十人で非常に盛会、先づ二時半より学部長初め各学科主任教授間で説明の会があり、続いて三時半より各学科より選出された三名（主任教授を含む）が新館に同列して懇親会を続行。なごやかな中に五時半過ぎようやく終了した。（岡田記）

“今後実現を期したいと念願していることども”

学部長　岩田耕作

わが農獣医学部も昭和二十六年発足以来明年で十年目になろうとしている。十年一と昔というから、この辺で一度反省して将来への覚悟を新らたにすることも無駄ではないと思う。

顧みればこの十年間に建設面では昭和三十年には鉄筋四階の本館成り、本年は又地階とも五階の鉄筋千坪の新校舎の落成を見た。

また研究教育面では昭和二十八年度には大学院の獣医学研究科の修士課程成り、昭和三十年にはその博士課程をつくり、昭和三十四年三月には新制大学制度による新しい獣医学博士を一名出している。これは日本大学全体としても理工学部で一名の新制の工学博士を出しただけである。農学研究科に於ても昭和三十三年度より農芸化学専攻の修士課程が認可され、更に明年度よりは博士課程の設置を申請中である。

又わが学部には昭和二十三年以来旧制の農学博士授与権が認可されているが、昭和二十八年以来農学博士を授与されたものの数は三十名以上に達している。

又学部七学科の拡充強化には特に留意してきたが、昭和三十三年度より農芸化学科を増設して、農学部に近代化の色を濃くしたことは記憶に新たなるところである。

以上のように過去十年間の農獣医学部は建設面でも教育研究面でもかなり発展強化はされてきたものの、未だまだ前途遼遠なりと考えている次第である。換言すれば今後の実現に待つ問題が少なからず横わっていると思う。

たとえば水産科の船建造の問題、農学科の東京校舎隣接地に農場獲得の問題、獣医科附属病院建設の問題、臨海実験所、演習林、牧場施設拡充の問題等々数限りない問題が横たわっている。これ等はどれ一つゆるがせに出来ない緊急の問題である。これらに対し順位に照応し重点的に実現を期したいと念願している。切に校友諸賢の温き後援と御指導と御支援をお願いしてやまない。

日本大学農獣医学部入学志願要項（昭和三十五年度）

募集学科及び人員

（一）学部　一年　四八〇名　二、三年若干名

学科	専攻	学科	専攻
農学科	農学専修、農芸工学専修	畜産学科	
農芸化学科		農業経済学科	農業経済学専修農業協同組合専修
獣医学科		林学科	森林生理学、林産学、林業経営学
医大進学課程（医科大学進学志望）		水産学科	漁業学、製造学、増殖学

（二）短期大学部　農業科　一年　四〇名

出願資格　第一学年

（イ）新制高等学校卒業者
（ロ）通常課程による十二年の学校教育を修了した者
（ハ）通常課程以外の課程（例えば通信教育）により之を相当する学校教育を修了した者
（ニ）外国において学校教育における十二年の課程を修了した者
（ホ）文部大臣の指定した者
（ヘ）新制高校卒業程度資格検定試験合格者

出願手続

（イ）入学志願票（用紙は本学より交付）（医大進学志願者は志望学科欄に医大進学課程と記入のこと）
（ロ）出身学校長の調査書
　第二学年以上の編入志願者は出身校の調査書又は成績証明書（成績証明書は必ず各科目の単位又は週及び年間授業時間数を附記すること）
（ハ）身体検査証明書（用紙は本学より交付）
（ニ）受験料（金二千五百円也）
（ホ）返信用封筒（住所氏名を明記し切手を貼付したもの）
　右の書類を取揃え出願受付所へ直接持参するか、又は書留郵便で送付すること。

出願場所

東京都世田谷下馬町三丁目　日本大学農獣医学部入学係

出願期日

二月一日（月）より試験前日まで受付をする。

入学試験

（一）試験日時
学部一年　三月四日（金）五日（土）午前九時（八時三十分集合）
短大・学部二、三年編入　三月二十八日（月）午前九時（八時三十分集合）

（二）試験場
東京都世田谷区下馬町三丁目　日本大学農獣医学部東京校舎

（三）試験科目
第一学年　国語、英語、理科（物理・化学・生物のうち一科目選択）
　但し農業経済学科は理科の代りに政治社会または一般社会を行う
第二、三学年　英語、生物、論文
　但し　農芸化学科は生物の代りに化学を行う
　　　　農業経済学科は生物の代りに経済学を行う

合格と入学手続

（イ）合格者発表　日時は試験当日掲示する
（ロ）入学手続　合格発表後約一週間内に入学手続を完了すること

◎注意事項

（イ）受験票到着せざる場合は試験前日受付に申出ること。尚遠隔の為自宅出発までに受験票未着のおそれある場合には、受験場受付に保管して置くから、希望者はその旨申出て置かれたい。
（ロ）一旦受理した入学書類、受験料その他学費一切の納入金額は如何なる理由があっても還付しない。
（ハ）照会事項は凡て返信用封筒（郵券貼付宛名自記）を同封し本学部入学係宛に送付すること。

新校舎の第二期工事成る
実験設備に重点

本紙十四号で新校舎第二期工事の予定をお知らせしましたが、昨年の八月二十一日に松井建設の手によって着工され、予定よりおくれたが、本年十月に完成し、第一期の校舎と並んで発展途上にある本学部を象徴するように、その偉容を下馬の高台にそびえたたせている。なお、十月二十八日に、学校関係者、校友多数を招いて新校舎完成の披露宴が新校舎図書室で盛大にとり行われた。

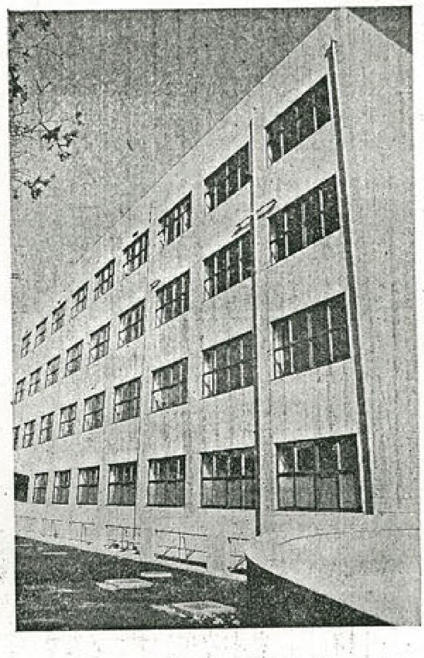
新校舎の内容を詳細に紹介すると次のようである。

○建坪　一〇九坪二合二勺
　延坪　一、〇九四坪
○総工費約一億九百万円
○建築　松井建設株式会社
○設備　第一設備株式会社
○電気　三和電気工業株式会社
○各階の平面図
地下　実験室二、研究室三、特別実験室三、畜産製造室一
地上一階　実験室二、研究室六、特別実験室二、宿直室一、便所一
二階　教室五、便所一
三階　図書館分館、標本陳列室、便所
四階　実験室十一、特別実験室六、研究室二、総合研究室

これらをまとめて各学科別にわけると次のようになる。

地下　第二家畜飼育学研究室（岡本教授）乳加工研究室（福島教授）生物実験室一、畜産加工室（斉藤助教授）食肉加工研究室（斉藤助教授）
一階　畜産物利用研究室（花川教授）生物化学研究室（森教授）エーテル室、食品栄養化学研究室（中島教授）天秤室　農産利用学研究室（西川教授）化学実験室一、獣医学研究室（佐野助教授）家畜飼養学研究室（斉藤教授）
二階　教室五
三階　図書館、標本室
四階　漁業学研究室（村山教授）家畜繁殖学研究室（佐藤教授）微生物学研究室（大島教授）アイソトープ研究室　第二病理学研究室（奥教授）臨床研究実験室一、公衆衛生学研究室（細谷教授）外科学研究室（木全教授）家畜育種学研究室（佐々木教授）

右の内容でもわかる通り、新校舎は教室、実験室の増加に重点がおかれ、本学部の発展が外部拡張とともに、内容の充実をも示すものとして注目され、この充実した内容から、学界に新しい寄与が続々と生れ出ることが期待される。



完成した新校舎

学部の成果を高めた学部祭

学友会引継幹事長　大川富士雄

私達学友会の年間行事の中で対外的にも、対内的にも最も重要な意義を持つ学部祭も理想的な成果をあげて無事終了致しました。今年は特に日本大学創立七十年記念としての式典が天皇、皇后両陛下の御来臨のもとに挙行されその記念行事の一つとして全日大展示会音楽会、学部祭がおこなわれたのですが、展示会では我が学部の水産学科が独自の内容を展示してその名を高め、学部祭も総長をはじめ各方面から多数のおほめをいただき、第一次産業の将来をになう学部の名を高める事が出来たのも、本部の仮装の部で農芸化学二年がチームワークの良さを発揮して三位に入賞した事も、先生及び先輩の良き御指導と学友諸兄の協力の賜と考えております学部の持つ唯一の自治組織である学友会の学術文化、体育の各部が年間の研究、努力の結果を発表する機会である学部祭の諸行事は我々学生の為にも、又地域社会の科学的向上の為にも本当に意義あるものと思います。特に本年は区内の中、高校生を招待し、理科の教材として、又将来の進路選択の指針として、各研究部員の親切な説明のもとに見学していただいたのは、学術、文化の研究によって社会に貢献する事を使命とする我々の目的に最も即したものと考えます。しかし今学部祭の全般、特に計画面を反省する時、決して理想的なものといい難く、これに依って多くの示唆を受けられた諸兄に対しこの紙面をお借りしておわび申し上げます。

さて、私達の学友会も発会以来年々その内容を増して参りましたが、本年は我が学部においても新館落成による図書館、研究室の完備や昨年独立した農芸化学科の森教授の学術会議員御当選等によってその名声をいやが上にも高めようとして居りますが、それに伴って学友会も一層の成果をあげたいものと思います。新年度はその意味において学術部の研究発表の場として学部祭の他に学友会主催の研究発表会や講演会等も計画したいと考えて居ります。又今後の社会発展に資する為、高校生による理科研究発表コンクールも計画したいと考えておりますが、これは当然研究部員諸兄の御指導、御協力なくしては実現出来ず、今からお願い致します。特に昨年独立した農芸化学科は農業の化学化という近代日本に不可欠の問題に向かって、新しい伝統を日本大学の歴史の上に印してもらい度いものと思います。

以上は学術研究面での学友会の活動でありますが、大学生活の目的は唯学問の探究だけがその全てではなく、将来、民主社会構成の一員として人間性、人格の完成を目指す精神面の修養も必要と思います。学生生活において精神修養の場は数多くありますが学友会の文化、体育、外局の各部は最も身近な団体として学生の精神修養の面に大いに寄与するものと思います。本年は文化面の活動も目覚しいものがあり、海外研究部、茶道部は学術部に遜色ない位の見学者を動員し、音楽部、女子文化部、吟詠部、舞曲部は前夜祭、芸能祭で日頃の練習の結果を発表し満場の拍手を浴びましたが数日前の総務委員会で新たに観光資源研究同好会、合唱クラブが発足しましたので来年の文化面の行事は一層多彩なものになると思います。

▽体育面においてもグランドの不備をものともせず、全国獣医学生武道大会で柔道部が優勝したのを始めとして各方面でその名をあげて居ります。又我が学部唯一の外局団体である応援団も近年その民主的経営によって体育大会に独自の応援を繰り広げたのは今後の応援のあり方を示すものと考えます。以上の様に学友会も年々発展の路をたどって居りますが我我は現在の状態に満足する事なく常に現在より高い所に目標を求め日本大学中興の精神を基に自治意識を高め、学部の名を高める様、日々を過し度いものと考えます。

農経科主要学科目内容

農業経済コース	農業協同組合コース
農業経済学	農業経済学
経済原論	農業政策
農業政策	農業協同組合論
農業金融及び市場論	農業共済保険論
農業法	農業金融及び市場論
農業統計学	農村社会学
農業地理学	農業協同組合簿記
農村社会学	農業協同組合経営論
農業史	農業協同組合分析論
農村財政論	農業協同組合監査論

大学院・農業経済学専攻コースがあります

昭和33年度卒業生の状職状況

	獣医学科	水産学科	農学科	農芸化学科	農業経済学科
官庁団体	62	1	3	0	56
民間会社	10	22	7	14	12
試験研究機関	15	5	1	4	0
学校（小・中・高）	0	2	7	2	4
自家営業	25	9	14	5	6
その他	10	20	0	0	0
計	122	59	32	25	28

昭和三十四年度校友会役員

役名	氏名
会長	工藤　正城
副会長	白井恒三郎
副会長	白山　巖
理事	山本　秀雄
〃	上野　勲
〃	蒲原　務
〃	小関　淹
〃	金田　禎之
〃	設楽　茂雄
〃	桑原志都夫
〃	白井恒三郎
〃	福島　正次
〃	白山　巖
〃	田島貞次郎
〃	野崎　邦興
〃	来米　速水
〃	佐藤　弘一
〃	三木　敏夫
〃	河村　光幹
〃	杉原　要
〃	宮崎　善三
〃	東　禎三
〃	加瀬　恒夫
〃	納賀　栄之
〃	工藤　正城
〃	北川　休
〃	福田　秀夫
事務局長	佐々木　実
常任委員	工藤　正城
	白山　巖
	桑原志都雄
	佐藤　弘一
	山本　秀雄

農業協同組合コース設置決る

昭和35度年から募集

我国の四年生大学において初の農業協同組合コースが農業経済学科内に新設され、明年四月から開講される事になった。従来協同組合関係の教育は短期大学が最高限度であっただけに、協同組合関係者の喜びが大きいのみならず、我国の大学制度においても劃期的な意義をもつものである。このことは日本大学の発展にとっても大きなプラスになるものであって大学関係者は勿論、校友諸兄も共に喜んで頂きたい事である。以下新設の農業協同組合コースのアウトラインを紹介する。

農協コース設立の趣旨

農業経済学科は農学部設立当初から、設置され、十二回にわたって約二〇〇名の卒業生を社会に送り出している。卒業生の職業別比率は図表の示す如くである。

この表の如く、卒業生は農業部門以外にも多く就職しており、比較的農業的色彩の濃いのは、農協（一〇％）と青果市場（九％）及び自営（一〇％）である。最近市町村合併に伴い、農業協同組合の合併も盛んに行われ、その規模が全般的に大きくなっている。かかる農協の大規模化に伴い、専従の有能な組合経営者を求める声が大きくなり、最近の卒業生中農業協同組合関係への就職者が微増している現状である。前述の農協関係就職者（一〇％）は殆ど最近の卒業生ばかりである。このような傾向から見て、一般的に農協問題をよく理解した有能な分析、調査の能力ある経理担当及び経営担当職員の養成の必要性がクローズ・アップされて来ている。更に農協系統のみならず農業関係の食品会社等も農業問題をよく理解した上に更に、経理や経営に明るい人材を求めている。

このような社会の要請に応えるために、新設されたのが、この農協コースである。そして又、農林行政にたずさわる公務員や、農業関係教員、農業金融関係、青果市場等に進む人材養成のため、従来の面目を一新して再出発したのが新しい農経コースである。

新設学科科目と担当教員

（一）農業経済コースは従来の農業経済学科目を大体踏襲しているが、新しく開講される学科目は、①農業共済保険論及び②の近刊③農産物市場論④農業経営組合学等で、何れも時代の要請に沿ったものである。

①は農林省「農業共済行政を担当していた斯界の権威者である農学博士野口平吉氏が担当する ②は従来の農経学科専任教員が担当し ③は農学科農業土木学コースの教員に委嘱する予定

（二）農協コースは初の試みであるため、相当多くの学科目が新しく招へいする教員によって担当される。主な学科目と教員について簡単に紹介しておこう。

蒲池公咲氏　農業協同組合論は従来通り農林省農政局長、秋田県知事、東北開発総裁等を歴任し、現在全国農業会議所の理事長である蒲池先生が担当する。農協監査論の担当者は未定である。

楠士路運夫氏　協同組合短期大学助教授、協同組合経営研究所研究員、交渉中。楠士路氏は今更紹介するまでもないが、学会活動は勿論、新聞やラジオ等多方面にわたって第一線で活躍している新進ではあるが、農協理論の権威者である。

青木一巳氏　農協経営論は農林中央金庫の調査部長として斯界の権威者青木一巳氏が担当する。

山根藤次氏　拓大講師兼協同組合研究所嘱託、農協簿記論担当、交渉中。

更に今後数名の権威者招へいを考慮中である。最後に、従来の農業経済学科の専任教員が夫々学科目を一つずつ受持つが、その主要学科目を二つずつ次に紹介する。

農学博士稲川河教授は、農業法と農業金融論。経済学博士岩田朗作教授は経済学と経済学史。農学博士桐原殖治教授は農業経済学と農村社会学。久木田賢治教授は農村政策論と農業史。栗来達水助教授は農政学と農産物市場論。島津厚住講師は農業計算及び評価学と農業簿記論を夫々担当する。

推薦の言葉

全国農業協同組合中央会会長　荷見　安

このたび日本大学農獣医学部農業経済学科に農業協同組合講座の課程を設けられたことは永年農協団体の運動に直接関係してきた者として誠に欣びに堪えない。学生時代から農協団体の経営使命を体得されるということはまことに望ましい限りである。日本大学が四年制大学としてこの課程を新設された栄誉は日本農業界の発展のために衷心から賛辞と期待を惜しまないものである。

推薦の言葉

東京大学名誉教授・農学博士　東畑　精一

このたび農業経済学のなかで、比較的軽視せられてきた協同組合の理論を更に広く深く掘り下げるために、日本大学の農業経済学科に農業協同組合のコースが設けられ農業団体の幹部として必要な学識技能を持つ者を養成せられることは、農業経済学徒の一人としてまことに同慶に耐えない。農業の近代化に即応する試みとして、又直ちに社会的需要に応ずべき新制大学の体制として、まことに時宜を得たものである。立派な成果と着実な発展を祈って止まない。

農業経済学科の学科内容

農業経済学は経済学の特殊部門であって、富の生産及び流通に関する社会的関連の中で農業の占める地位と役割とを分析する事により、農村社会の物質的生活関係を統一的に把握する事を目的とするものである。かように農業経済学の内容は広範囲に及んでおり、しばしば農学を総合する任務を負わされている。殊に我国農業の近代化に当って農業経済学の果す役割は極めて大きい。当学科は、二つのコースに分けられており、一つは農業経済学コースで他は今度新設された農業協同組合コースである。各コース毎の主要学科は別表の示す通りである。（二頁参照）

次に各学科についてその内容を簡単に説明する。

（1）「農業経済学」は、前述したので省略するが、この学科では「農業経済学」をこの中に含ませている。「農業経済学」は農業経済の本質を究め、どうすれば手ぎわよく農業経済の目的を達成し得るかの、理論及び方法を研究する学問である。

（2）農業政策　国家その他の公共的機関が農業に対して意識的計劃的育成を加える行動が農業政策であるが、それだけでなく、かかる行動の背景とも認められる政綱をも研究するものである。

（3）協同組合論　協同組合論という名称で出されているが、本学ではこの種の講座には一般会計学、簿記学ならびに農業簿記学及び評価学が設けてある。

（4）農業協同組合論　信用販売購買利用等の諸事業を綜合して営む各市町村の総合農協は勿論、県連、農協中央機関の特殊農協をも研究対象として各種協同組合運動が演ずる役割を経済的に把握しようとするものである。

（5）農業金融論　利潤が少く、資本回転のおそい零細農業を対象に金融の在り方を研究するものである。この中では政府が主体となっている制度金融は勿論農協系統による系統金融の研究も行われる。

（6）農産物市場論　需要と供給との広い結合関係が市場であって、最近目覚しく伸びつつある農（畜）産物市場を経済学的に研究するものである

（7）農業共済保険論　我国の政府自らが再保険者となっている農業共済保険事業を直接の研究対象としているが、農業災害に対する農業共済保険の主体である農業協同組合の行う保険事業をも取扱うものである。

（8）農業法　農業政策の実施基準は農業関係の法規範である。これを対象に法律学的に研究するものである。

⑨農村社会学は農村における部落社会の構造やその性格を追求し、農家の経済あるいは農業経営との関連を解明し、農村民主化に役立てようとするものである。

⑩農産業指理学農業を具体的にその指理的分布や指理的構成等に関して解明するものである。

⑪農業統計学　種々の調査によって得た資料を整理して、統計学的に経済情勢や社会情勢を明確にして、農業を科学的に研究してゆくための方法を確立しようとするものである。

⑫農業史　農業を対象とする政治的、社会的、また経済史的研究である。

⑬農村財政論　従来余り研究されなかった地方財政を研究対象とすると共に、一方において地方財政の農村経済に対する影響並びに干渉の態様を明らかにし、又逆に農村経済が地方財政に与える制約、条件を究めるものである。

⑭その他　この他農業協同組合経営を研究対象とする協同組合経営論、組合簿記、組合分析論、組合監査論等の講義がある。

（主要科目内容要は二頁参照）

（主要科目内容要は二頁参照）

農業工学専修要項

農学科は昭和三十四年度より、科内に農業工学専修を設立し、従来あった、農学系統関の農学専修と農業工学専修との二本建にて、学生の教育を実施する事となりました。

顧れば、大会の校舎で日本大学農学部開設以来、農学科内には耕種学専攻、畜産学専攻、農芸製造学専攻の三つの専攻があり、昭和二十五年四月、畜産学専攻が独立して畜産学科となり、昭和二十三年四月、農芸製造専攻が独立し、農芸化学科となり、それぞれ大いに発展の歩を進めています。

農学科内耕種学専攻は農芸化学科独立と同時に耕種学専攻の名称は消え、農学系一本の農学科となりました。

単一の学科となった農学科は、先ず教授陣の強化を行ない、昭和三十三年四月に耕種専攻当時の永井、萩原両教授の外に、強化第一陣として、園芸系統に国立農業試験場園芸部蔬菜科長、農博、江口庸雄技官を教授に招聘し、日本農業土木の[illegible]である、東京大学名誉教授田中貞次先生を農業土木系統の教授に招聘しました。

その間、昭和三十三年一月、耕作助教授が教授に、捕昭専任講師が助教授に各々昇任し教授陣拡充強化の第一歩が印されました。

研究施設は年を追う毎に増大されているが、特に実学である農学科は、実験、実習を重要課目として、学生実験施設は近年急激に増大強化されております。

戦後、日本の農業形態は著しく変り、作業様式も一段と進歩し、農業機械の進出目覚しく、広い畑に響く、エンジンの音は、従来ののどかな風景を一変しつつあります。又国家的見地から考え、開墾の建設、貯水用堰堤用ダム建設、干拓工事等の国土開発計画が進されている現在、農学科も斯界の要望に答えて、永井、田中両教授の許にて、科内に農業土木学、農業機械学系統の農業工学専修を設立する気運が強くなり、幾多の容量を経て、昭和三十四年四月より、農学科内に農学専修と農業工学専修を設置する事を、一月上旬に文部省、大学当局から認可を得ました。

しかし高校生の大学対策はすでに終らんとしており、新しい専修の認可は遅きに失した感がありました。如何に高遠な理想に燃え、優秀な研究施設が増強され、立派な計画がなされても、高校教員、高校生に、日本大学内に農獣医学部がある事、又農獣医学部内に農学専修と農業工学専修とより成る農学科が案存する事を知らしめねば、学生の持ち崩れになり、又全国の高校生のマイナスは如何ばかりかと感じ、農学科主任永井教授はじめ助手に致る全員、打って一丸となり冬休みの休日も取らず全国に遊信し、特に関東一円は各人手分けをして、東で遊説の旅に出ました。

その効果あってか、三月の入学試験日には農学科定員計六〇名のところ、農学希望数二一〇名、農業工学希望数一九〇余名に達しました。

入学を許可された学生に取って農学科は学問研究の殿堂であり、又何年か先には各界各部門に進出する飛躍台でもあります。

入学した数多くの学生に、より一層学問、真理の探究が出来得やすいように、ひいては卒業の暁には、卒業生すべてが一流の機関に一〇〇パーセント就職出来得るために、課外に特別講座を設け、実[illegible]ます。

そのため農学科の学生に基礎学力養成講座と名付け、数学・英語・独語・物理学等主要科目の補習をやり、教授・テストを度々行って参りました。その結果、前期試験にはその効果が顕著に現われ、特に独習に於ては教授就任以来の最高の成績を示したといわれる程でした。又出身高校の教員にもこの旨を伝え成績も通知したところ、各出身高校教師より感謝を得ました。この講座は農学科教員の力の許す限り続ける事となっております。

新入学生の講座はさて置き、現在二年以上の学生に対しては、教課の充実を計る事はもとより、二年次、三年次に進級関門を設け、その年度修した課目は殆ど修得せねばならない規定を置き、必死に勉学に当らせ、実力養成は随時行なわれ、特に実験、実習は平時の三倍から五倍の量が行なわれ、実験の終了が夜間八時過ぎまでも及ぶ事がしばしばあります。これは卒業された頃の農学科とは隔段の違いになっている事と思います。

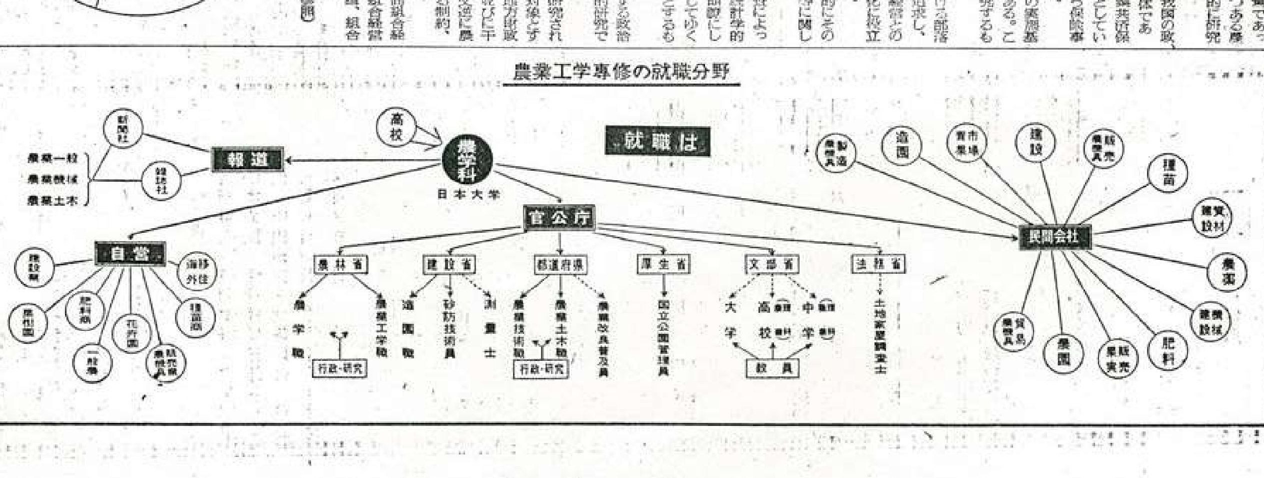
昔より現在の農学科を見れば、卒業も大部難しくなって来た事は校友諸兄に声を大にして「農学科は前進しておりますぞ」とお伝え出来ると同時に、農学科にお預りした学生は立派に鍛育し、農学科に学んだ、智性、教養、道徳を身に付けた学生を、優秀な職場に送り出せる体制が確立した事を確信をもって御報告出来ます。

今年は大学の学生就職対策の一環として、農学科卒業生の就職している各職場の写真も掲載してある「社会は招く」という大学案内を発行致しましたが、校友各位のお手許にも新会員名簿と共に近日中に御送附致します。

末尾ではありますが農学科卒業生の就職先分野を図示致します。

農経卒業生の職業別比較

農業工学専修の就職分野



各科校友会の動き

いもづる会だより

◎会の動向

いもづる会は、今年一八名の新会員を迎え、その総数は約三〇〇名に達した。本会の動向は次の通りである。

五月二十二日―第一回幹事会開催

1、昭和三十三年度決算の承認

2、昭和三十四年度予算の審議

3、昭和三十四年度総会に関する件

4、根岸教授還暦記念事業委員の選出

5、農業経済学科の学科課程の一部を変更して、農経コースを設ける案、以上五つの課題について討議した。

五月二十七日―昭和三十四年度定時総会及び懇親会開催

五月二十二日の幹事会の決定事項について若干の修正が加えられて承認、懇親会は多数の来賓の御出席の下に銀座「天龍」において盛大に行なわれた。

八月二十二日―第二回幹事会開催

近県の農業団体に勤務する校友の御足労を煩はし、農経コースのあり方について、幹事と意見の交換を行なった。

十一月一日―久木田教授、来栖助教授の祝賀会開催

十月一日付で久木田先生が教授・来栖先生が助教授になられましたので、祝賀会を開催し、多数の校友が集り非常に盛大な会でした。

十二月四日―第三回幹事会開催

1、根岸教授還暦記念論文集についての打ち合せ。

2、農経コースが承認されるまでの経過報告。

◎吉報―次の諸兄が本年所帯の喜びを挙げられた。

校友一同謹んでお祝い申し上げます。

江草 近(七期青県市場)松下久(七期静岡県庁)奈良茂助(十期教員)富沢寿樹(十一期青果市場)

なお、角井信(四期)山根勝次(七期)青山和夫(九期)の各氏に長子が誕生したとの報に接しております。

◎就職のお願い

来春三月卒業予定者二〇名のほとんどが就職を希望しております。現在までに農業会議、青果市場、教員など数名が決定しておりますが、まだ希望者がおりますので何かよい口がありましたら農経研究室に御連絡下さるようお願い申上げます。

◎根岸教授還暦記念論文集出版資金募集について

目標額三二万円に対し、十二月五日現在で五万八千円集まりました。なお一そう校友諸兄の御協力をお願い致します。

桜水会だより

◎桜水会活動

わが桜水会活動も十周年の記念事業以来益々活発化し、本年度の事業にも学生就職対策、名簿及び会誌の発行等を計画した。既にこれらは着々計画通り実施され大いに成果を上げている。特に学生就職対策には各科校友会共全力をあげてこれに対処。わが水産学科もポスター、パンフレットを各々三〇〇部作製、十二月七日全国関係個所に発送した。また新聞、雑誌関係には村山主任教授のお骨折りで「水産新聞」、水産経済新聞、また雑誌関係には水産資源、飼料および水産試験場等に依頼、十二月号には掲載されるはずである。

また就職関係も近年になく積極的で全国の各官公庁および会社に依頼状を送付、その成果は別項(就職調べ)の如くである。尚名簿、会誌の発行については担当者の熱心なる努力で既に発行の運びとなっている。

◎研究室移動

この度の新館落成に伴い水産学科も研究室の移動があった。即ち新館四階に村山主任教授の研究室が、また元病理学研究室には水産生物教授研究室から石川教授と出口講師が移動し、水産増殖学研究室とした。

◎水産学科専任教員昇格

水産学科ではこの度十月一日付で関係各位の御尽力により磯木講師が助教授に、東、出口、門田の各助手が講師に昇格した。各氏共研究にまた学校問題に大いに張切っている。

◎学部祭に著名人多数参観

十一月一日―三日恒例の学部祭が挙行され、総長はじめ著名人が多数参観した。特に水産関係では東大末広教授がお見えになり種々御教示下された。

尚本会の充実発展の為校友諸兄の一層の御協力を乞う。(門田記)

畜産学科だより

今年度の畜産学科の最大の朗報の第一は新館の落成により学科の研究室が新館に移り学問体系として整備充実し、大いに発展の基礎を固めたことである。新研究室の名称と教授名は次の通り。

▽家畜育種学研究室(四階)佐々木清綱教授、金谷復五郎教授▽家畜繁殖学研究室(四階)佐藤繁雄教授、陸川昭二助教授▽家畜飼養学研究室(一階)斎藤道雄教授、佐々木実講師▽畜産物利用研究室(地下)衣川義雄教授、小林忠太郎助手▽第二家畜飼養学研究室(旧畜産化学研究室)(地下)岡本正行教授、大江賢太郎助教授、海老原直講師▽乳加工研究室(地下)福島正次教授、大木貞昭助手▽肉加工研究室斎藤満昭助教授

以上の様な構成で各先生方が研究と学生の指導に努力されておられる。

第二には、二年前の大学院のマスターコースの設置に続いてドクターコースの設置申請の準備が主任教授佐々木清綱先生を中心とする教授方並に事務関係各位の御努力により着々と進行していることである。全国の各大学の中でドクターコースを有する畜産学科は極めて僅かであり、名実共に我が国のAクラスへの道を歩みつつある。

ひるがえって今年三月卒業の諸君の就職状況をみると食肉関係会社に約三一%、飼料部に乳製品関係にそれぞれ約五%、官公庁に約三五%、その他約一三%で殆んど会員が実社会のその道に奮闘しておられる。

昭和三十五年三月卒業見込みの諸君については既に関係業会員各位に就職の希望事項を書き込んだ名簿を送附し、又、教員の方々の努力により次第に決定している最中であるが、本卒業諸君がこの面においてもより一層発展されるよう御手添下さるよう御願いする。

〇十一月三日恒例の学部祭のパーティを行ったが、晴天のため例年にない盛況で六十余名の校友と先生方があつまり、五枝過込テーブルスピーチあり乾盃ありで大いに有意義の会合を行った。

〇調務理会では、当畜産学科のPRのために学科の研究室、牧場、大学院その他を紹介するパンフレットを作製中で明年早々、畜産関係の役所団体その他に配布すべく準備中である。

獣医学科校友会

予期以上の成果を納めて無事五十周年記念事業を了え同慶に存じます。

お陰様にて獣医学科も益々発展の一路を辿っております。本年は芽出度く第一回大学院博士課程の卒業生を実社会に送り出しました。

そして近く二人目の新獣医学博士を生みだそうとしております。一方旧制の学位獲得者も陸続として、本学科同窓生から送り出しております。

現在母校に残っております同窓生も既に教授になられた方々は五指を数えます。

教授陣容では我々が親しく御教授を受けました家畜衛生学の佐藤繁雄先生が御病気で長い事休まれておりますが他は殆んど移動がありません。

佐藤先生の代りとして現任農林省家畜衛生試験場の所長、須川技官が熱心に講義されております。

国家試験も昭和三十二年度は九八%強、昭和三十三年度は一四〇名の多数の卒業生が受験し九六%強の合格率を確保し、全国平均を上廻る好成績を修めております。

更に本年度は全員合格の喜びに浸るべく教授学生一体となって努力しております。

就職の方も同窓諸兄の御支援により昨年度に引続き本年も殆んど完全就職致し折角求人の御通知を戴きましても御期待に添えないほど嬉しい悲鳴をあげている状態です。

紙上をお借りして厚く御礼申上げると共に今後とも宜敷しくお願い申上げます。

最後に先般開催されました総会において本年度の役員が選出されましたのでお知らせ致します。

昭和三十四年度獣医学科校友会

役員表

会長	大森 智通
副会長	島田 幸治
同	福島 正次
幹事長	大熊 俊一
庶務幹事	佐藤 敬
会計幹事	岡野 直臣
監事	加地 正光
同	笠井 金盛

校内幹事

桑原末郎夫、斎藤幹蔵、細谷英夫、小畑進、大山耀次、谷口守男、熊谷朝義、宮本吉郎、武石昌敬、稲谷晃一、臼井弥、新井銀久

校外幹事

臼井健三郎、安達啓治郎、鈴木市郎、大塚佳信、細谷不二夫、田中鉦太郎、浅見謙、松本幹、石沢宏義、佐藤網一、牧野正顕、須川幸夫、島田勲、鈴木章、香田三侯夫、四宮良美、佐瀬繁三、鈴木久信、岩間剛毅、西川誠、太田孝二、小野規夫、金原栄雄、堀内茂友、田口幸八、長尾荘七、石関忠一、梁瀬弘光、山田茂、波多腰彦、村田六治、近藤明や、武田久雄、高月益雄、吉田仁夫、福住元一、各県支部長

農芸化学・紫友会

まず研究室の状況からお伝え致します。新校舎落成により農芸化学は一階に四研究室すなわち生物化学(森)食品栄養化学(中島)農産利用学(西川)醸酵学(浅野)を配置し従来の本館二階の部屋は土壌学肥料学各研究室として引き続き使用することになりかくて六研究室四教授三助教授三講師の布陣でいよいよ本軌道にのって進むことになりました。会員皆様の御援助のお陰でここまで発展出来ましたことを深く感謝致しますとともに農芸化学昇格の記念として立派なスチールロッカー六台を研究室に御寄贈下さいまして本学科教員一同厚く御礼申上げます。

さて森主任教授はこの程行なわれた第五期学術会議に第六部より出馬され見事に当選されました。また浅野清司、渡辺晋両氏は十月一日付でそれぞれ助教授、講師に昇進されました。ともども祝意を表したいと思います。なお浅野助教授の東大留学は一応来年三月まで続く予定であります。

現任在学生は農四年四一名、同三年二五名、農化二年七五名、同一年九五名で約二四〇名近い大世帯となり実験室も完備し学生一同張り切って勉強しておりますがよい学生を入学させよく勉強させ会員立派に就職させる建前から学科としては本年より学生募集にも本腰を入れて努力致しております。皆様もどうぞよい学生を沢山御推せん下さい。

紫友会は去る三月で会員数三六六名に達し、来春新会員を迎えると四百名をこえる大世帯となります。ところでいろいろの事情で延びていた年次総会を近々(出来れば来年一月)開催の予定で役員、事務局で目下案を考えております。が改めて日時は御通知申し上げます。今回は役員改選時期ですので東京周辺の会員多数の御出席をお願い致しておきます。

農学校友会便り

師走の街々には既に暮気分やらの風が吹いて参りますが、会員各位には元気に活躍されて居られる事と存じます。

農学校友会は本年度は役員の改選期に当り、十月十二日の役員会で、理事、会長、副会長が内定されました。

総会及び懇親会は十一月三日(文化の日)に開催しました。総会は新役員の選出その他の要件が提出されましたが、終始活発建設的意見が出ました。懇親会は飛坂常務家で行われましたが、出席六拾余名の多きを数え、盛大に、和気あいあいと会員大いに語り、飲み且つ歌って楽しい一夜を過しました。当日欠席されたり、遅刻の方の会員には紙面を借りまして御伝え致します。

本会発足以来、第一期卒の佐々木弘誠君が事務局長の任に当りましたが、今年から第七期石井数治君が事務局長に就任致しました。又第十一期卒白井隆己、坪木良雄両君が助手として大学に残ったため、両君が新事務局員となり、新局長とともに活躍が期待されます。

農学科は本年四月より科内に農業工学専修を併設し、教授陣容も拡充され、実験研究施設も増大し、入学学生の急激な増加と共に農学科も画期的の飛躍を致しましたが、尚一層の発展を期すべく会員各位と共に懸命に励んで居ります。

会員も卒業以来年を経るに従い、学籍などにより、住所も変更された事と存じ、今年十二月中旬までに会員名簿をお手許まで発送すべく日時を急いで居ります。

新理事氏名(( )は期別)

会長 理事	山本 秀雄(一)
副会長理事	矢島寿太郎(三)
理事(庶務)	蒲原 務(一)
理事(会計)	上野 勲(五)
理事	横山 芳男(一)
理事	宮浦 敏雄(七)
理事	桃園章三郎(十)

小型版 世界文学全集 全48巻・¥290

責任編集 阿部知二・伊藤整 桑原武夫・手塚富雄 中島健蔵

現代に生きる世界文学のエスプリ

第3回発売中 第4回十二月二十四日発売 アンナ・カレーニナ I・II 中村白葉訳 〔解説〕桑原武夫

〔既刊〕スタンダール 赤と黒 生島・桑原訳

ドストエーフスキイ 罪と罰 米川正雄訳 【解説】荒正人

【内容見本進呈】

東京神田駿河台下 河出書房新社

全十八巻 各巻二九〇円 現代人の日本史

監修 佐藤春夫 久松潜一 西岡虎之助 大仏次郎 西田直二郎

主なる執筆者 佐藤春夫・丹羽文雄・室生犀星 松本清張・海音寺潮五郎・今東光・中山義秀・南条範夫・尾崎士郎・榊山潤・立野信之・中谷孝雄・檀一雄